

学校教育の情報化に関する懇談会 メモ

2010年5月27日 中村伊知哉

本日の会議を欠席致しますのでメモを提出致します。

1 議論の方向性 (ご提案)

以下の方向で議論を進めるのがよいのではないのでしょうか。

1) 目標

コンセンサスを得て、政策の具体的な目標を定めるべきではないか。

例) 20XX年までに世界一のデジタル教育環境を整える。

20XX年までに全小中学生にデジタル教科書・教材を行き渡らせる。

20XX年までに小中学校のカリキュラムの○%でデジタル教科書・教材が使われる。

2) 評価指標

デジタル教科書・教材のもたらす効果について、学力、創造力・表現力、問題解決力等に分けて明らかにするとともに、その評価指標を形作るよう努めるべきではないか。

3) 政策マスタープラン

学校教育の情報化を進めるための政策マスタープランを形成すべきではないか。

そのパッケージには、予算措置、民間支援措置、法制度手当て、推進機関、実験・トレーニングプログラム等を含むとともに、ロードマップを描くべきではないか。

4) 連携方策

本施策は、学校のみならず、家庭、地域等との連携のもとに進めるべきではないか。

このため、社会全体の理解を得るための普及啓発活動に力を入れるべきではないか。

また、本施策は、教育分野のみならず、医療情報化、行政情報化等の施策と連動させつつ進めるべきではないか。

このため、IT政策、知財政策、科学技術政策等との連携を強化すべきではないか。

2 デジタル教科書教材協議会について (ご報告)

第一回会合で紹介致しました協議会は、7月27日(火)に設立総会を開催すべく準備を進めております。

なお、その活動内容に鑑み、より正確かつ広がりのある名称とすることとし、デジタル教科書協議会という仮称を「デジタル教科書教材協議会」に改めました。

会員企業を中心としつつ、政府、地方自治体、教育現場、研究機関その他の関係者との連絡を密にしていまいります。

さらに、この問題に関心のある多くのかたがたの意見を受け入れる工夫をしてまいりたいと考えます。国際的な連携にも力を入れたいと存じます。

本懇談会での議論も踏まえ進めてまいりますのでご指導ご協力のほどお願い致します。